

## 現時点の考え方として「リーマンショック後並み」と主張！ コロナ禍を理由に、またも社員犠牲！？

本部は11月5日、2020年末手当第3回交渉を行った。

会社は現時点の考え方として『貴組合からの申し入れ、趣旨説明を受け、経営陣に対してしっかりと報告し、社内議論を行ってきた。現状では、新型コロナウイルス感染症に未だに一人の感染者も出さず、現業・非現業問わず役割を果たしていることに感謝するとともに、「令和2年豪雨」「台風10号」の中で、公共機関としての使命を果たし、慣れない作業に取り組んでいただいている現状は、社員を支える家族の協力あってのものであり感謝している。

しかしながら、本年度は「中期経営計画2023」の2年目であり、総合物流企業の確立に向け、グループ会社とともに、収支改善をはじめ経営の継続や、更なる発展に取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染症により世界規模で経済が後退していることから、景気の先行きは不透明な状況であり、10月改定では運輸収入で100億円の下方修正を行い、現状+2.3億円、100.2%と上回っているが、下方修正した数値に対しての結果であり、年度末に向け厳しい経営が続くことが想定される。

これらを踏まえ、現状、リーマンショック後の終わりの見えない状況と同等な状況と判断することから「リーマンショック後並み」と考える』と、現時点での考え方を明らかにした。

### 何を根拠に「リーマンショック後並み」と主張するのか！？

組合より「リーマンショック後並みとの根拠」について質すと、会社は「この間の決算内容からリーマンショック後と似通ったものと判断した。当時の状況と同様な経営環境であることから、今、年末手当の「現時点での考え方」とした。2013年度にも厳しい判断をしたが、今回はそれを除いたもの」と説明している。しかし、当時とは経営環境、決算状況、社員数など、とても同等とはなっていない。まして、冒頭、会社が述べた「社員の感謝している」との言葉との整合性も何ら見られないものである。

今回の会社の考え方は、2008年度、2009年度の一場面を切り取ったものでしかなく、それまでの7期連続の黒字、2010年度以降の10期連続黒字や、今後の設備投資では、成長・戦略投資などレールゲートの大型投資は変更することなく実施していくとしていることから、社員犠牲のみを押し付けるものでしかない。社員・家族に感謝するなら、その還元について経営陣は判断すべきである。

社員の奮闘、  
家族の支えに  
期末手当で、  
応えるべき！



**11月5日付け闘争指示12号による要請行動を全力で取り組もう！**